

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：大津通自治会

開催場所：大津通公会堂

開催日時：平成 28 年 7 月 6 日（水）19 時 00 分～20 時 53 分

参加者：自治会側【地域住民の方 16 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、眞鍋危機管理部長、森田病院事務部長、

三浦秘書課長、田中戦略推進課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

### 内 容

#### ① 村本自治会長あいさつ

- ・市長をお迎えしての車座トークということで、皆さんの本音が出るか分からないが、地域の住民とのふれあいには良い方法である。
- ・何でも忌憚ないご意見をお願いしたい。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■はじめに

・この車座トークは、68 の全部の自治会をまわるということで、最初の 2 年間は呼んでくれるところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部隈なく周るという事は難しかった。今の島田の抱える課題、私の考え方を皆様に知っていただき、地域の皆様の行政に対する意見やこの地域の特性を教えていただいて、それを市政に反映したいということでまわっている。

・大津通は区画整理が終わっていて、お宅も耐震性があるし、道水路も整備されている。駅にも商店街にも近く、恵まれた環境にある。

・大津通の 5 月 31 日現在の世帯数は 147 人世帯、人口は 372 人で、高齢者人口は 91 人、高齢化率は 24.5%となっている。市の平均が 29.3%なので、5%程度低い。15 歳以下の人口は 60 人で人口に占める割合は 16.1%となっている。市の平均は 13.8%なので、子どもの比率は高い。

・このように大津通は高齢化率が低く、子どもの数が比較的多い。近隣に大きな河川もなく、崖もない。あらゆる意味で市内の一等地の地域といえる。

・大津通（横井中央線）は平成 30 年頃までには電線類の地中化が終了する。この道路は、大井川の河川敷から野田のインターチェンジまでの幹線道路として今後も整備をしていく。特に、市民病院の建替えに伴い、病院に入る交差点の整備（右折レーン設置）による渋滞解消も考えている。まさに、市内のメインストリートとなる。

・今、島田だけでなく日本全国で課題となっているのが人口減少。人口が減ると商店街のお客さんも一割減る。お茶の価格が下がると商売に差し障るという状況になっている。

- ・日本の人口は2008年から減っているが、島田市では1995年から少しずつ減り始めた。子どもの数が減り始めたのは、1975年（昭和50年）からで、もう40年も経っている。
- ・人口減少に歯止めをかけて、あらゆる施策を講じて人口を維持していくには、減り続けてきた年数は必要であると考えている。
- ・このため、今後は人口減少を食い止める施策と同時に人口が今後減り続けることを考慮したまちづくりも必要となる。
- ・島田市では、生まれる赤ちゃんの数が、5年で150人減っている。ちなみに昨年生まれた赤ちゃんは722人で、今年度、成人式を迎える若者は1,000人以上いる。
- ・一方、65歳以上の高齢者はこの5年間で3,160人増えた。このペースで行くと、早い時期に人口の3分の1が高齢者という状況になる。
- ・このような状況は、働く世代が減って、税収も思うように増えない時代となっていく。世の中がそういう状況になっていくことを前提としたまちづくりが必要である。
- ・森昌也氏が昭和28年に市長になられ、「市民の手による市民のための市政をつくります。」とおっしゃっている。20年間、島田市政を行い、市民会館、市役所を建設し、大きな会社も誘致をして、町を大きく発展させた。昭和48年にお辞めになるときに、「私は、量的にこの町を大きく発展させてきた、だけど、本当に住みやすい町は、その量的な発展の上に質的な発展を遂げた町なんだ」ってことをおっしゃって引退された。
- ・森さんと私とで確実に違うのは、森さんの時代は、明日は必ず今日より良くなって、土地も上がって、人口も増えて、町も大きくなる時代だった。一方、高齢化が進み、労働者人口は人口の約半分になっていく時代にあっては、税収は伸びない中で、医療、介護、子育て、教育分野での経費は増えていくが、次世代に多くの借金を残していくことはできない。この時代に市長になったのは、自分の使命であると考えている。
- ・今までは行政にお任せしておけば何とかやってくれた。しかし、高齢化、少子化や人口減少などに対応していくためには、一緒に取り組んでいくまちづくりが必要となる。行政も責任を果たしていくが、それだけではできないことがある。例えば、昨年の夏に、高齢者が熱中症にならないように、保健師に見守りをさせたが、実際にはクーラーの使い方が分からない高齢者もいて、地域の見守りがあってはじめて近所の高齢者は安心して住める。行政がやるべきこと、地域がやるべきこと、地域と行政が一緒になってやるべきことを分けながら考えてやっていく時代が来たと感じている。

#### ■新病院の建設について

- ・新病院は、街中への移転を白紙に戻して、現在の場所で建替えることとした。その際、地盤について心配をいただいているが、ボーリング調査もしているし、岩盤までは距離はあるものの、その間の土質は粘土質である。液状化は砂と水が混ざって起こる。県の第四次被害想定でも液状化しにくい場所になっている。今の最新技術で岩盤まで杭を打てば建設には何も問題がないと思う。
- ・造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりするが、あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかとと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。
- ・基本構想をつくり、今年基本設計をつくっている。設計業者が3月に決まったので、その設計業者と基本設計をつくっている。

- ・基本構想までに決まったことは、病床数を 445 床とすること。（現在の病院の許可病床は 538 床）病床を減らす理由は、精神科が、平成 19 年から休んでいるが、精神科は入院の患者を診るだけの先生の確保が難しいため閉鎖する。あと 35 床ばかり療養病床というのがある。新しい病院でも療養病床に長期で入院している方はずっと市民病院が診ていく。ただ、島田市民病院の療養病床は、一般の療養病床のようにずっと入院しているわけではなくて、次に行くところが決まるまで、退院調整をするような機能で使っているので、療養病床というベッドにしなくても、一般の病床の中で診ていくこととする。
- ・国も毎年 1 兆円ずつ医療費が増えていて、最近では C 型肝炎の薬が 1 錠 8 万円もする。これは 3 ヶ月飲まなければいけないので、720 万円かかることになる。これが保険適用で月 2 万円になる。
- ・また、肺炎の免疫力をつける薬は 1 年間飲み続ける必要があるが年間 4,000 万円程度掛かる。また透析患者も 1 年で 500 万円程度の医療費が掛かるといわれている。このため、公費で負担する額はどんどん増えている。国の借金も 1,000 兆円を超え、国民一人あたり 826 万円になる。
- ・医療費が掛かることは事実ではあるが、政治の根幹にあるものは、「市民の命を守ること」である。この基本は市長となってから一貫して持ち続けている政治信条である。
- ・国は医療費抑制のため、2025 年を目途に医療制度改革を行う方針で、施設（病院を含む）から在宅へという流れを考えている。島田はこれに対応するため、この 4 月から 24 時間訪問看護ステーションをはじめている。もし、夜中に具合が悪くなくても、かかりつけの医師の指示書があれば、ナースが指示書に従って医療行為ができるというもの。安心して在宅で医療が受けられるというもの。
- ・これと同時に、病院を丸ごと機能別にしたいという考えを持っている。救急病院、回復期の病院、療養病院というように、病院丸ごと指定することを考えている。島田市民病院は、救急病院としてやっていきたい。救急病院というのは、7 対 1 といって、患者さん 7 人に対して看護師が 1 人以上いないといけない。療養病床というのは、13 対 1 とか 15 対 1 など、一人の看護師さんが 13 人から 15 人くらいの患者さんを診ることができる。救急病院の中に違う慢性期の病院が混ざるような、そういうシステムがなかなか医療報酬の点数の中で、認められないというような方向性が出ているため、市民病院は救急病院としてやらせていただきたいということが、実は療養病床をなくしていくことの原因である。
- ・床面積は 35,000 ㎡、7～8 階建てで、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・現存の施設では、救急病棟と健診センターが残る。事業費は今年度末にはかなり細かな事業費が算出される予定であるが、現在のところ、247 億円を想定している。半分は病院、半分は市の一般会計で負担する。
- ・完成時期は平成 32 年度末の予定。また、新病院が開院した後、現在の建物を取り壊し、駐車場整備などの外構工事を行うので、グランドオープンが平成 34 年 3 月になる予定。

来年の詳細設計を経て、次の年に建設に入っていく。

- ・4 月からは、設計事務所による基本設計業務が始まり、院内各科・各部門（外来、手術、救急、病棟、検査等）のスタッフとの整備方針の確認や要望ヒアリングを実施し、5 月だけで、科別ヒアリング 48 回、部門代表者による会議 4 回を実施している。
- ・地盤調査については、現場でのボーリング調査は 5 月末で終了し、現在はボーリングデータの整理と採取した土質サンプルで透水性や組成などを調べる室

内試験を行っている。

- ・このように、今年度は、1年かけて具体的に新病院を建設するための基本となる設計案を策定し、同時に、①購入していく医療機器、移設する医療機器などの機器整備計画や②新病院での医療情報システムの基本計画、③患者やスタッフ、薬品や医療資材などの物流（動線）基本計画などもつくっていく。
- ・今年度の取組は、1年かかると見込んでいるが、なんとか今年中（11月中旬ぐらい）には、大まかな新病院の外観や階層、玄関の位置、外来診療科の配置、駐車場計画などの案を中間報告として、市民のみなさまにお知らせしたい。
- ・新病院の駐車場は、現在の917台から40台程度増やして、約960台分を整備する予定。
- ・市民病院周辺の道路整備については、新病院の具体的な設計を行い、病院の配置や玄関の位置などを決めながら、周辺の道路からどのように出入りするかといった接続方法などを検討していく。具体的には、新病院の計画に合わせて、県道の右折レーンの整備について検討を始めている。
- ・事業費の247億円のうち医療機器の購入に約50億円かかる。医療機器の減価償却は短く、5年で借金を償還しなければならない。
- ・市民会館の解体を現在行っているが、2年間結論を出さなかった。これは、市役所も築53年で手狭にもなっている。病院も合併特例債という有利な起債を使う。平成32年までに完成した場合に活用できる。市役所も合併特例債が使えるが、平成32年までに造るとなると、借金の負担が後年度に一時に多くなる。
- ・一方で、「稼ぐまち」もつくっていかななくてはならない中で、金谷のインター周辺の大規模開発や企業誘致、にぎわい交流拠点、金中跡地の土地利用など投資するお金も必要。病院の事業費が見届けられるまでは、市役所の建て直しは後にして、市民会館と市役所の合築とするのかも含めて市民の皆様の御意見をその時に聴いてきたいと思っている。

#### ■市民会館について

- ・5月から市民会館を壊し始め、できれば、島田の大祭に間に合うようにスピードアップするようと言っている。この秋までに、市役所の隣にある市民会館は更地になって、当面の間は駐車場とイベント広場、そして、中心市街地の災害時の避難場所等に使うところだと思っている。市民会館は県内でも2番目に早くできて、あの規模で、非常に音響も良くて、県内一の市民会館だった。
- ・昔はたくさん観光バスが来たり、芸能人も、ドリフターズも来たり、いろんな有名な人たちが来て、それが無くなるというのは本当に寂しいことだが、一番早く出来たってということは、やっぱり一番早く寿命も来るとのこと。市民会館が閉鎖になる直近の5年間について、本番であの大ホールを使っていたのは、年間で30日ほど。リハーサルを含めても、50～60日。新しく同じものを造るとなれば、70～80億円になると考えられるので、この市役所を建替えるときに、もう一度市民会館を合築出来ないか、おおりも築33年なので、あの辺一帯をもう一度どのようにしたらいいかということをも市民の皆さんの合意形成を得ながら造る方がいいのではないかと考えている。そのために、少しの間、1,500人規模のものをやる時には、焼津の市民会館、あるいは菊川のアエルを使っただけということ、これまでも市民会館を使っただけの方々には、1回あたり50万円の補助を出している。それで、機材を運んでいただいたり、交通費に使っただけだったりというようなことをしながら、大変ご不便をお掛けしているが、しばらくの間、おおり、夢づくり、チャ

リムという 600 人規模のホールが三つあるので、そこで何とか回しながらやっていきたいと思っている。

#### ■蓬萊橋周辺整備等について

- ・蓬萊橋は、これまでは国土交通省の所管であり、なかなか物を建てるができなかった。
- ・規制緩和もあり、ずっとお願いしてきたこともあり、物を建ててもよいという許可をいただいた。ミズベリングという協議会をつくり、答申をいただいた上で、来年の新茶の時期に間に合うように、お休み処と、物品販売する場所を造りたいと思っている。
- ・幕臣 800 人を率いて牧之原台地の開拓に入った中條景昭を派遣した勝海舟の銅像を、牧之原台地を望むところに建てたい。勝海舟の、幕臣 800 人を励ます胸の熱くなるような手紙が、去年、千葉で発見されるなど、島田と勝海舟のつながりが、子ども達の誇りになるよう教育もしていきたいし、観光の名所にもしていきたい。
- ・最初は、左岸側の番小屋の近くから来年の春を目処に整備を始めていきたい。
- ・このように、観光客がお金を落とせる仕組みをつくってきたい。
- ・また、帯通りの活用についても色々検討をされていて、帯通りは市道であるので、使用するには警察への許可申請が必要となる。そこで、緑地にしてしまうことも考えたが、帯通りともう一本の市道に面しているお宅は（帯通りの）緑地指定によって接する道路が一本になって、建蔽率が変わってしまうという弊害もある。このため、市道と緑地の同時の指定が可能かを検討しているところ。
- ・街中の賑わいを取り戻すため、週末になれば何かイベント等を催しているといったことについて検討をはじめている。これに関連して、中心市街地活性化基本計画について今年度から検討に入っていて、来年度から本格的に策定していくが、行政だけでつくるものではなく、実情に応じた計画となるよう、関係者の意見を聴きながら策定をしていきたい。
- ・ぴ〜ファイブの 1 階はパチンコ屋の仕様となっているので、所有者である「まちづくり島田」も店舗等活用策を色々検討してきたが、搬入口がない、窓が少ないなどで、なかなかアイデアがなかった。現在検討している内容は、まだ決定ではないが、音楽などのグループが練習する場所がないので、そういう使い方ができるのではないかと考えている。概算費用も算出してないし、設計もしていないが、市民会館の解体に伴う練習場所の補完という意味でも活用できると考えている。また市民活動場所としても活用できるようになればと考えている。

#### ■公共施設のマネジメントについて

- ・島田市の公共建築物は 663 棟、62 施設となっていて、プラント系は 11 施設。昭和 40 年代に建設されたものが多い。経年劣化が進んでおり、今後、どのように長寿命化や再編統合して、建替えや維持管理費を抑制していけばいいかが課題となる。同年代に建てられたものが多いことから、更新の時期には莫大な経費がかかるので、そうならないような取組もはじめています。これは、島田市だけではなく、どの自治体も同じ課題に直面している。
- ・島田市の道路延長は 1,140km、橋は 1,155 橋で、5 年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持していくことをメイ

ンとなっている。

・国も県も土木費の縮減を図っている。国も平成12年頃には、全国の自治体に道路をつくる補助金だけで15兆円以上のお金を出してくれていた。これが、26年度も27年度も当初予算についているお金は5兆1千万円であり、3分の1となっている。県の方も、35の市町に道路をつくるための補助金で、同じ頃165億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、去年も一昨年も当初予算のベースで46億円くらいと、こちらも3分の1となっている。

・今後、施設の必要性をハード面、ソフト面双方から検証し、見える化して施設の必要性を評価していきたい。

・また、公共施設は民間の力を活用した取り組みも考えていかななくてはならない。市役所とマンションの事例や民間の建てた建物にリースして市役所などの機能が入るなどの事例も含め今後検討していきたい。このような、公民連携に加え、広域連携も必要であると考えている。同じ施設が近隣市町である場合、相互補完して対応していくことも視野に入れていく必要がある。公共施設については市民の皆様の意見を聴いて合意形成を図っていきたい。

#### ■地域の活力の維持について

・高齢化や人口減少によって役員へのなり手がいないということが地域で課題になっていると聞いている。

・小学校でも複式学級を実施しているのは3校。1学年2人という学校もあり、クラス替えや切磋琢磨する学習環境がないことが、子どもにとっていいことなのかについても、皆さんと話し合っていく必要があると思う。

・地域の活力の維持には、第四地区の自治会が連携して、人材を少ない役員で回していくような体制をつくってみたり、協力し合ったり、地域の要望の優先順位を決めたりなどではできないかと考えている。

・これからは、「行政に任せておけばいい」という考え方でなく、地域の人たちも自分たちの地域のことを行政と一緒に考えていくことによって「協働のまちづくり」を推進していきたい。

・例えば、湯日小学校という小さな小学校は複式学級になっているが、昔は放課後児童クラブなどはいらなかった。しかし今は放課後児童クラブに通うお子さんがいる。一番近い初倉南小学校まで5km。湯日小学校の全校児童数は30人くらいの学校なので、そこに放課後児童クラブはつくれないという中で、どうやって南小まで子供たちを毎日運んだらいいのか、行政は一時はタクシーを使うことも考えた。地元で相談したところ、地元の方々はローテーションを組んで、迎えに行くのは親だから、送っていくことは一日一回だけだから自分たちで何とかすると言って、自分の車で子供たちを送ってくださっている。それに対して行政は、ガソリン代と車代をお借りするという意味も込めて、お礼のお金をお支払いしている。ここは放課後児童クラブもつくれないが、働く親が増えて放課後児童クラブが欲しいという中で、地域の西部ふれあいセンターという公民館を使って、地元の人たちが自分たちで放課後の子供たちを見る。毎日ではなくて週3回くらい見ている。そんな活動もしている。

・地域の課題は地域ごと違うので、地域も一緒に進んでいかないと地域の活力の維持は難しい。

・そういうことができるまちにしていきたい、計画段階から皆さんに意見を聞いて街づくりを行っていきたい。

・また、安心して暮らせるまちをつくるのが究極の政治。そこに、若い世代が住みやすい町にしていきたい。

・そういったことから、新東名島田金谷インターチェンジ周辺の内陸フロンティアによる工場の誘致、にぎわい交流拠点整備、旧金中跡地の開発など、稼ぐまちをつくりながら、雇用も生み出す取り組みを進めていきたい。

### ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■人口減少への対応について</p> <p>人口が6月末で100,030人となっていた。このままだと10万人を切ってしまう。中心市街地にも老夫婦の2人世帯が多くなっている。</p> <p>若い世代の流入によって町の活性化につながる施策として、島田市に転入した若者夫婦などの市民税や固定資産税の減免は検討できないか。</p>	<p>●以前にも同様の質問を受けたことがあり調べたことがあるが、法令上減免は難しい。しかし、他県から引っ越してきた方への補助金制度も活用してほしいし、空き家の改修の補助制度も用意している。移住促進に向けて今後も引き続き施策を考えていきたい。</p>
2	<p>■大祭について</p> <p>祭りの保存会では、お祭りに出ることを前提に話が進んでいる。人材も財源も苦しい中で、部会の設立の提案も聞いてもらえない。このような状況の中で、行政でも、第三者の意見を聴くことを目的として、検討部会（委員会）を立ち上げることを検討してもらいたい。上踊りも朝8時から行うことには疑問を感じる。子どもが早起きして支度するのはある意味、児童虐待だ。</p>	<p>●前回の大会の時にも、人、金がないと聞いていたが、終わったとたん誰も何も言わなくなった。このため、今回は2年前から準備をはじめたが、市が主催者ではないので、保存会が主導している。ただ、改革は待ったなしという見解は私自身持っている。上踊りも10時からでもいいと思う。</p> <p>●大祭は、大きな家柄の人たちが何軒もあって、街ごとに大きく支援して、祭りが成り立ってきたと思う。そうした大きな家柄の人たちはもうないわけで、お金は前と同じようにかかる。根本的なところで大事なものは続けていかなくてはいけないが、時代が変わってきている、商店も減ってきている中で、どうやってつなげていくのかという知恵がいる。自分たちの祭りとしてやっていくのか、観光資源として見直すのか議論を深めていかなければならない。</p> <p>●島田大祭の人の部分について。教育委員会の方に中学生を出せないかと言うことで協力をお願いしている。3年前にも中学生を出せないかと、各街にお願いしたが、お酒を飲む機会があるということで、街の方から断られた。中学生がお祭りに関わることで、伝統・文化を知ることがで</p>

		<p>きるし、ふるさとに戻ってくる（回帰してくる）、大きな理由付けにもなるので、今年は是非中学生も仲間に入れていただけるとありがたい。金谷の茶まつりでは、子どもにも伝令をさせていた。小さなころから祭りに携わることで引き継がれていくものがある。</p> <p>●店を閉めてやるお祭りとなっているので、自分たちがやるお祭りを見てもらう、お金を落とせる祭りにしていく、島田市全体のお祭りにしなければいけない。改革についてはお話をさせていただく。</p>
3	<p>■しまだ楽習センターについて（その1）</p> <p>今年度から講座の回数が月3回から2回になってしまった。その理由は。</p>	<p>●講座の内容がわからないので何ともいえないが、生涯学習の拠点として「金谷宿大学」というものと、しまだ楽習センターと2つあって、通っている方は、それぞれ通っているほうのやり方がいいと思っている。「金谷宿大学」は、先生も市民で、教える側も学ぶ側も自分たちで運営している。楽習センターは、市が講座を決めて、市が先生を雇い、受講生は受講費を払って受講していただく。サービスとして受けている。徐々にではあるが、みんなで作っていく生涯学習にしていきたいという流れを思っている。「金谷宿大学」も「みんくる」だけでやっていたが、公会堂やしまだ楽習センターにも来て、色々なところでお互いに展開している。こうした中、受講した方々がサークルをつくって、独立してもらい、その活動をする場所として学習センターの学習室を確保する必要もあることから、回数が減っていると思われる。仲間内で独立した場合にはその活動スペースは確保できると思う。</p>
4	<p>■しまだ楽習センターについて（その2）</p> <p>活動場所の確保のため、くじを引くため早朝から並ぶ。40人以上の抽選だと、2回くらいしか場所を確保できない。そういう場合は、おおるりで確保するため、おおるりに予約しに行っている。</p>	<p>●街中の市民活動の場として、歩歩路の第6会議室を登録団体に無料で貸し出すことにした。登録票は1枚だけで手続きは簡単なので、是非活用してほしい。</p>
5	<p>■しまだ楽習センターについて（その3）</p> <p>歩歩路は1年前でも混んでいる。</p>	<p>●確認してみる。【検討事項1】</p> <p>なお、ぴ〜ファイブの1階については、そういった市民活動の場としての補完の意味でも整備を進めていければと考えている。</p>

6	<p>■しまだ楽習センターについて（その4）</p> <p>しまだ楽習センターの受講料が振込用紙となった。 今までは、受付のお金を窓口で払っていた。戸惑いが出た。二重手間のような気がする。その理由は。</p>	<p>●はじめて聞いたので、現金を扱わなくなった理由を確認する。</p> <p>【検討事項2】</p>
7	<p>■藤枝市との違いについて</p> <p>藤枝市は人口が増加しまちに活気がある。島田市と藤枝市との違いをどのように分析しているか。</p>	<p>●藤枝も大規模店舗はできているが、アピタや西友は閉店して淘汰されている。よく、藤枝はこの頃活気があるといわれるが、昔、島田がすごく活気があったとき、藤枝はそうはいかなかった。時代の移り変わりの中で、今、静岡との距離であるとか、様々な要因もあって、特に、土地利用だとか、農振だとか、島田は農業が良かった時は全部かけてきましたから、なかなか、新たな土地開発が難しい。その、農業がよかった時はすごくよかった。しかし、新たな時代にはそれが足かせになっている。</p> <p>●藤枝も今後、コミュニティの維持も含めて今の勢いを持続していくことは困難であると思う。島田は子育て支援の充実などによって、六合、初倉地区の人口は増えている。</p> <p>●産業が変化する中、木都からお茶の機械産業、そして次世代は何かを考え、内陸フロンティアで企業誘致をしていきたい。大井川の伏流水、質のいい水は他にはない島田の武器であると考えている。</p>
8	<p>■平成28年度当初予算について</p> <p>市民とともに夢を描く経済対策とあるが具体的に何か。</p>	<p>●「交通結節点で稼ぐ」ということで、先ほど説明した内陸フロンティア推進区域の整備をはじめ、にぎわい交流拠点の整備などを実施していく。</p> <p>「まちの魅力で観光で稼ぐ」では、蓬萊橋お休み処の整備をはじめ、川根地域のパラグライダーの基地、オートキャンプ場も事業化していきたい。またマラソン大会は日本一の大会にしていきたいと考えている。</p> <p>お茶の郷は県に移管されたが、リニューアルの再来年の春、旧金中跡地と一体でインバウンドのお客様の受け皿にしたい。牧の原公園は夜景遺産にも選ばれていることから予算をつけて整備していく。</p>

		<p>「農林業で稼ぐ」では、広域で大井川流域産材の活用を促進するほか、シティプロモーションである「緑茶化計画」を一層推進して地場産業である茶産業を市民が一体となって後押ししていく。</p> <p>農業振興には2億円を計上し、特に若い農家に農地を提供して農業に従事してもらおう環境を整備していく。</p> <p>また地場産業の競争力をつけていくために、産業支援センターにおいて経営、副業、起業創業の相談や補助制度の紹介などを行っている。相談件数が非常に多く好評である。</p> <p>新商品の開発関連予算として6月補正で400万円を計上した。</p> <p>昨年度選定した「島田の逸品」の追加募集などで地場産業の活性化にも力を入れていく。</p>
9	<p>■合意形成について</p> <p>合意形成とは、トップが考えて実行をする中で市民と話をしていくことだと思うが、こんなことを事業としてやっていきたいということやプランについて聞きたい。</p>	<p>●私の考えを皆さんに問うて合意形成を図ることも一つではあるが、私が市長になる時、裁判を3つもらった。そのうちの 하나가最終処分場。埋めた物は調べたが安全なものだった。しかし地元の方への説明が十分でないうちに受け入れるということ、埋めるということを先にやってしまったため、こじれてしまって、1審で全面敗訴であった。2審でも勝てないとの判断をして控訴をとりやめた。何とか和解をしたかった。埋めたところは全部掘り起こして放射線濃度も調べた。あらゆる話し合いを重ねているが、来年の3月までに返してほしいとのことである。地権者は、半分の方は賛成。反対の方が半分。これから10年以上も毎年借地料が入ってくると見込んでいる方たち。もし使えなくなったら、賛成地権者の方も、まだ使ってもらいたかった、最後は茶畑として返してもらいたいと思っていたという約束も果たせない。賛成地権者からも訴えられることもありうる。そのくらい最初の合意形成がうまくいかないと大変なことになるということが私の中で肌身に沁みた一つの経験だった。</p> <p>したがって、まちづくりの方針を示して皆さんに問うこともするが、何かをやる時にこれでいいですよという合意形成を皆さんに問うてか</p>

		<p>らやらないと、あとからこじれたら大変になるということを思っている。</p> <p>金谷庁舎は合併した時に耐震補強をして、使い続けるとお約束をしたそう。北南支所を造ることで、あそこはあのままになってしまった。職員は耐震のないところで働いているし、エアコンも故障しているため、夏場は暑い中で仕事をしている。社協の移転後には、おおりの1階に教育委員会を移転して、金谷庁舎を新たに思っている。その時には、北と南を一つの支所に戻す。職員も半分以上の人数でできると思うし、民間の活力も活かしながらということで、今年中に方向性を出すという約束をしている。支所を北と南にしたことで、金谷と五和が分かれていってしまう。その融合の地に金谷庁舎が建っている。そういういきさつの中で、何かをやる時には合意形成が必要であるということで、方針を示して合意形成も必要だが、皆さんの意見を聞いてという合意形成である。</p>
10	<p>■市民会館について（その1）</p> <p>島田市は近隣に比べ文化水準が高いと思っていた。だが最近では低くなっていると思う。二中の吹奏楽も全国大会に行っていたことも含め、市民会館の存在は大きいと思う。こうしたことから、市民会館は是非建替えてほしい。</p>	<p>●県内で、1、2を争うほど早くできた立派な建物で規模も設備も素晴らしい建物。我が市民の本当に誇りであり文化の象徴であった。ただ、早くできたということは、それだけ早く、使えなくなるのも同じ速さで来てしまうということ。島田市民の文化力は和文文化も含め、文化人も多くいる。その層がすぐになくなるとは思わないが、その拠点がなくなるとは17,000人の署名の現われでもあると思う。</p> <p>一方で、これからは広域での考え方も検討していく時代。広域の連携を推進していく時代。志太の3市との連携を強化して、それも視野に入れてやっていく。稼働率の課題も含めてみんなで考えていく。おおりも築33年を過ぎているので、市役所周辺、市役所の建設の検討委員会のようなものを立ち上げていきたい。</p>
11	<p>■市民会館について（その2）</p> <p>二中の文化祭も学年ごとで保護者は入れ替わりとなっている。二中は音楽が盛んな学校なので、保護者も全学年を聞きたい方も多</p>	<p>●学校によって規模も違うので一概には言えないが、六合、初倉は体育館でやっている。やり方等も含めて、学校側と相談してみないと行かない。調べてみる。【検討事項3】</p>

	<p>くいる。市民会館の時には、生徒も含め、ホールが一杯になるほどだった。また、市内の学校がひとつのところで集まって演奏会ができないのはかわいそう。</p>	
12	<p>■四小の通学路について</p> <p>市役所から郵便局を通過して学校に通っている。(遠回りになっている。) 歩道がないから危険だということ。二中、四小、付属中が皆さん使っているので雨の日は危険。まっすぐ行けば5分。児童の通学における通やすさを考慮した対応をお願いしたい。</p>	<p>●教育委員会にも話をしてみるが、今まで工事に伴って通学路にしていなかったかもしれない。電線類の地中化の工事があるのですぐにとはいかないかもしれないが、県道を渡ってからがどうなっているか分からないが。確認する。【検討事項4】</p>
13	<p>■県道の縁石の除去について</p> <p>県道を渡って、伊太谷川までの約40mくらいが、縁石をとってしまつて、歩道に色をつけた状態になっている。その理由がわからない。谷川の北側はある。それがあれば通学路として使えるのかも知れない。</p>	<p>●調べて返事をする。【検討事項5】</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

#### ④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
5 検討事項 1	●歩歩路の利用状況については確認してみる。【検討事項 1】	<p>■歩歩路の指定管理者である㈱まちづくり島田に市民活動室（第6会議室）の予約状況を確認したところ、午前、午後、夜間で予約率に相違はあるものの、10月、11月で50%～60%程度、来年の2月、3月であれば10%前後であることから、活動日を固定しなければ、予約は1年前であっても十分に可能ではないかと考えております。</p> <p>団体の皆様で御相談いただき、市民活動室を御活用いただければと考えています。</p>
6 検討事項 2	●はじめて聞いたので、現金を扱わなくなった理由を確認する。【検討事項 2】	<p>■楽習センターの講座受講料については、リスク管理の観点から現金を扱わない方法を検討した結果、納付書払いとしたものです。</p>
11 検討事項 3	●学校によって規模も違うので一概には言えないが、六合、初倉は体育館でやっている。やり方等も含めて、学校側と相談してみないとならない。調べてみる。【検討事項 3】	<p>■中学校では体育館で実施している学校もあります。市内小中学校の音楽発表会は、おおりで開催しています。大きな会場でないの良い発表が出来ないわけではありません。会場や実施方法は各学校の実情によりますが、それぞれ工夫した中で子どもたちは精一杯日ごろの成果を発表しています。子どもたちのがんばっている姿を、是非あたたかく見守っていただきたいと思います。</p>
12 検討事項 4	●教育委員会にも話をしてみるが、今まで工事に伴って通学路にしていなかったかもしれない。電線類の地中化の工事があるのですがとはいかないかもしれないが、県道を渡ってからがどうなっているか分からないが。確認する。【検討事項 4】	<p>■県道の天津通り歩道橋を渡り、直進すればという話だと思いますが、歩道橋を降りてから伊太谷川手前までの約70mの区間については、歩道部分が狭く、縁石もありません。小学生の登校時間帯は特に交通量が多いため、大変危険な場所です。昨年度、危険な場所について、道路管理者・警察・市教委・学校等が現場を確認し、対応を検討する、通学路の合同点検においても検討された場所でもあります。現在のところ、用地確保も難しいことから道路拡幅の計画はされておりませんので、安全な歩道幅2mを確保することは、困難であると道路管理者（国土交通省、県、市）は判断しております。児童の安全を確保するためには、遠回りでも、歩道部分が確保されている現在の通学路にて登校することが望ましいと思われれます。また、通学路については学校が決めているのではなく、地域の方（自治会・子供会）が決めておりますことを申し添えます。</p>
13	●県道の縁石の除去について、調べて返事をする。【検討事項 5】	<p>■県道伊久美元島田線は交通量も多く、南進車両の右折レーンが無</p>

<p>検討事項 5</p>		<p>かったため、交通渋滞を招く原因となっておりました。交通渋滞を解消すべく、車道の右折レーンを確保したため、ご指摘の区間の歩道がしわ寄せとなり、境界ブロックを撤去し、現在の歩道幅になったものです。平成 27 年度には、島田第四小学校から同様の内容で通学路合同点検の依頼があり、市土木管理課、生活安心課、島田警察署、県土木事務所の 5 者で合同点検を実施したところです。その際、県は、「歩道幅（2 m）の確保が難しいこと、沿道のお宅の出入りの問題から、境界ブロック等の設置は難しい、また、現在のところ計画はされていないが、拡幅となった場合、用地の確保や周辺への補償など、工事関係予算の確保も厳しく、現実的には非常に難しい箇所である。」との見解でした。このため、合同点検において「児童の安全確保の観点から迂回することとなるが、現行の通学路にて登校されることが妥当である。拡幅については計画がされた時点で、改めて通学路も含めた協議をすることとする。」という回答をさせていただいた経過がございます。</p>
---------------	--	--